報告 令和4年度医業経営セミナー開催

広島県支部主催、中国・四国地区各県支部共催 会場開催+Webライブ配信で実施



「DXの拓く自律的分業と連携」 ~医療のモジュール化を探る~

広島現地会場開催+ 岡山・香川サテライト会場+ Web ライブ配信

広島県支部(三原一訓支部長)は3月24日(金)、 令和4年度医業経営セミナーを「『DXの拓く自 律的分業と連携』〜医療のモジュール化を探る〜」 と題し、社会福祉法人恩賜財団済生会熊本病院院 長の中尾浩一氏を講師に開催した。

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感 染法上の位置付けが本年5月8日に季節性イン フルエンザなどと同じ「5類」に移行する方針が 出たが、昨年と同様に会場開催と Web ライブ配 信のハイブリッド開催とした。実施形式は、広島 県支部主催、中国・四国地区各県支部共催とし、 協会本部の Zoom ウェビナーライセンス枠を最 大限活用して、岡山県支部(黒田善宏支部長)・ 香川県支部(政木和夫支部長)はサテライト会場 をそれぞれ岡山市と高松市に設け、その他の会員 は一般も含め Web ライブ配信で参加する形式を 採用した。

医療の 「モジュール化」を行い 質の向上と効率化、働き方の改善目指す

講演で中尾氏は、医療現場におけるデジタル化 の遅れを指摘しながら、医療 DX を契機に医療の 「モジュール化」(分割・再定義)を行い、質の向 上と効率化および働き方の改善を図る済生会熊本 病院の取り組みを紹介した。

まず、DX とは「Digital Transformation(デ ジタルトランスフォーメーション)の略称で、「企 業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データ とデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズ を基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革 するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、 企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立 すること」と言われているが、COVID-19は、 そうしたデジタル技術導入の医療現場への遅れを あらためて浮き彫りにしたと指摘した。

その上で、伝統的な医療価値観アナログ(連 続・接触・対面)から、新しい医療 DX の価値 観デジタル(不連続・非接触・リモート)への変 革を求められているが、組織や運営方法をそのま まにして、戦略なきデジタルトランスフォーメー ション (闇雲な情報システムの構築) を進めても、 何の成果も得られない。医療 DX の実現には、医 療者の「マインドセット変更」が必要で、医療 DX は「技術」と「組織文化」の変革であること を強調した。

そして、デジタル化の前にワークフローを見直 し、医療の「モジュール化」を行い、疾病管理・ 患者管理・地域医療の「分業と連携」で、質と効 率と働き方を改善することを目指した同病院の取 り組みの経過を報告した。具体的には、医療の「モ ジュール化」として、「1.クリニカルパスの推進」、 「2. JCI の導入と継続」、「3. 地域医療連携(アラ イアンス)」に取り組んだことであるとした。

JCI の導入が医療 DX の実現に寄与

モジュール化には、世界レベルの医療の質と 患者安全の追求を行う国際的な医療機能評価機関 である JCI (Joint Commission International) の評価スケールを利用した。患者の外来から入 院、退院に至るまでの診療全体を審査し医療の シーンを分割し、責任の所在を明確にして引継 ぎミスを防ぐ仕組みへと変え、徹底的な可視化 すなわち文書化・数値化・データ化により形式



講師の中尾浩一氏

知として共有できるものにした。数値化したも のは評価でき、評価できるものは継続的改善と なり、データに基づく医療へつながっており、 JCI の導入は医療 DX の実現に大きな役割を果 たしている。

また、電子カルテに蓄積されたデータを1カ 所に集約し、つなぎ合わせたデータを表やグラフ で可視化することで改善活動に活用している。こ うしたデータに基づく医療は「働き方」の可視化 や連携医療機関との「地域で質の高い継続医療を 提供する」という戦略的業務連携 (アライアンス) の評価改善につながっていると述べた。

最後に中尾氏は、感染制御しながら高度急性期 医療の提供を継続するウィズ・コロナに対応した 病院経営が求められるとし、「DX 推進のポイン トは国民の国(政府)に対する信頼感(データを 国に預ける)にある」と結んだ。

今回のセミナーは病院関係者の申し込みが多 く、広島現地会場のアンケートで印象に残ったこ ととして「指示は反復しなければならない。最初 に結論を言う。批判しない、データで納得してい ただく。COVID-19 により、これまで見えなかっ た部分の1つが医療の価値であると認識できた。 病院総合医の活用が重要。わかりやすく参考に なった」など多数の意見が寄せられ、あらためて 本テーマへの関心の高さがうかがえた。

(本部広報委員/広島県支部副支部長 藤井 康彦)